

暮らし・福祉 最優先の 医療・教育 市川市を!



昨年4月に市長が代わり、子育て支援が拡充されました。子育て世帯だけでなく、高齢者世帯も、若者も、誰もが住みやすい市川にしていくために、共産党市議団は全力で取り組みます。

暮らしを応援

- 子どもの均等割など国民健康保険税の負担軽減を
- 保育園の民営化を中止し待機児童ゼロに
- 補聴器購入への補助制度を
- 全ての労働者の賃金アップを
- 若者向け家賃補助制度を
- コミュニティバスの拡充・増便を



楽しく安全な学校を

- 正規教員を増やし少人数学級の実現を
- トイレの洋式化、体育館にエアコン設置を
- 通学路の安全対策を

誰もが住みやすい市川に

- 交通不便地域の解消を
- 特養ホームの増設で待機者ゼロに
- 救急医療体制の整備拡充を
- 中小業者への支援を
- 高齢者の交通手段への補助を
- 下水道整備の促進を



豊かな自然環境に親しめる街を

- 水害対策、河川と調整池の環境整備を
- 緑地の保全と公園の整備を
- 三番瀬を守りラムサール条約への早期登録を
- 文化財の保全を



コロナ対策で市に申入れ

2020年1月末から、全世界を不安に陥れた新型コロナ感染症は、現在、「第8波」になっています。市議団では、市川市や市教育委員会などに11回の申し入れを行いました。市民の安全対策やエッセンシャルワーカーへのPCR検査の拡充、飲食店などへの補償、ワクチン接種の混乱解消など、その都度の課題に対して申し入れています。



前市長の無駄遣いを追及

前市長による無駄遣いは、「高級公用車テスラ」と「市長室に設置されたガラス張りのシャワー室」だけではありません。1億円を超えるものだけでも「新庁舎の不要な中央階段設置工事」や「失敗だらけの各種社会実証実験」「いちかわ未来創造会議」など、無駄遣いが多すぎました。

「テスラ」「シャワー室」問題は、多くのマスコミでも取り上げられ、市民からもお怒りの電話やメールがたくさん届きました。「テスラ」は撤回、「シャワー室」は移設に落ち着きましたが、「シャワー室」の設置、移設の工事費用は500万円にもなっています。

昨年4月に市長は代わりましたが、市政の監視・問題点の追及をしっかりと行い、「ガラス張りの清潔公正な市政運営」をめざします。

市政の監視



小学校（令5年4月～）中学校（令5年1月～）給食無償化がはじまりました

子育て支援が拡充されています

共産党市議団は、子育て世帯への支援や義務教育の食育の観点から長年要望してきました

赤ちゃん健やか応援給付金

目的 コロナ禍で、物価高騰により、おむつやミルク、離乳食を必要とする乳幼児を抱える子育て世帯への負担軽減。

対象者 平成31年4月2日から令和5年4月1日までに生まれた0歳～3歳の児童を養育している方

支給額 児童1人あたり**45,000円**

児童手当等受給者

約12,000人 ➡ 令和5年2月上旬支給
(申請不要)

その他 (公務員の方、9月以降に転入した方、9月以降に出生した児童)

約4,500人 ➡ 令和5年2月下旬以降順次
(申請必要)

子どもの医療費助成の拡充

目的 安心して子育てできるよう、とりわけ医療機関に受診しやすい環境の改善

拡充内容 (1と3は令和5年4月1日開始予定)

子どもの医療費助成

1、**中学生まで ➡ 高校生まで拡大**(償還払い※)

※高校生拡大分は、医療機関の領収書で申請し、後日、指定口座に助成金を振り込みます

2、**一定回数以上の自己負担分無償化**

(令和5年8月開始予定)

※県の実施に合わせて、同時期の導入を検討しています

ひとり親家庭への自己負担額を助成

3、**自己負担額 300円 ➡ 0円(無償化)**

体育館と給食室へのエアコン設置

目的 【体育館】●近年の猛暑に対応した、児童の学習環境・教職員の職場環境の改善
●災害時の避難所として、安全・快適な避難生活環境の整備

【給食室】●近年の猛暑に対応した、給食調理員等の職場環境の改善●安全安心な給食提供環境の確保

	体育館	給食室
設置箇所	小学校7校 (柏井小、宮久保小、百合台小、大野小、真間小、中山小、大洲小)	小中学校39校 すべての未設置校
設置時期	令和5年度 夏休み期間	令和5年度 夏休み期間

昨年の市議会を振り返って

公園の整備、トイレの洋式化求める



清水みな子議員

12月議会で、公園の整備などを質問。じゅんさい池緑地の壊れたベンチの改修は、公園を利用している市民の要望です。また、公園にあるトイレの洋式化については、洋式化を求めて署名活動をしている市民の要望です。洋式化していないトイレは、市内に75基。年に数基では30年かかります。市にすばやい対応を求めました。

庁舎内でのジェンダーギャップ解消を



金子貞作議員

12月市議会の代表質問で、まずは市役所内からジェンダーギャップ解消を求めました。市は「全ての職員を対象にジェンダーギャップに関する意識調査を実施することで職員の意識改革を図っていく。能力のある女性職員が幹部になれる具体的な施策を考え、粘り強く、解消に取り組んでいく」と答弁しました。

高齢者のごみ出し支援が実現



ひろた徳子議員

高齢者が大きなごみ袋を持って階段を下りる姿、また、杖や、雨の日は傘をさしながらごみを運ぶ姿を見かけます。高齢者の一人暮らしや高齢者のみの世帯が多くなる中、2020年からごみ出しの支援が始まりました。議会での質問から2年もかかりました。現在市内419世帯がこの制度を利用。ごみが出ていない時は安否確認をします。

インボイス制度導入で市政に影響



高坂 進議員

9月議会で、2023年10月から予定されている消費税のインボイス制度の導入で市政にどのような影響があるかについて質問。シルバー人材センターでの収入にも消費税が課税されることや、一般会計でも、市はインボイス発行事業者になる必要があるなど、広い範囲で行政、市民の暮らしに影響が出ます。これは、消費税税率引き上げの準備となっています。

買い物難民への支援を求める



やなぎ美智子議員

12月市議会での買い物難民への支援を求めました。地域のスーパーマーケットが閉店になり不安の声が殺到しました。市川市が協定を締結している「ダイエーの移動販売」が1月17日から開始されましたが、週1回で20分と限られています。交通手段の確保などさらなる支援を求めました。

4年間の主な実績



- ▶ ≪ 保育園待機児童の解消(国基準でゼロ)
- ▶ ≪ パートナーシップ・ファミリーシップ制度の実現
- ▶ ≪ 市川市手話言語条例(議員発議で実現)
- ▶ ≪ 国保税の子ども均等割50%の減免